

# 樋島地区まちづくり委員会

# 樋島まちづくり 事業内容(案)

## まちづくり事業計画

### 文化伝承部

- ・変わり行くまちの様子を記録した冊子づくり
- ・ロードマップ(観光案内)の作成と案内板の設置

### 地域部

- ・ふれあい広場整備
- ・竹灯籠製作及び展示

# 文化伝承

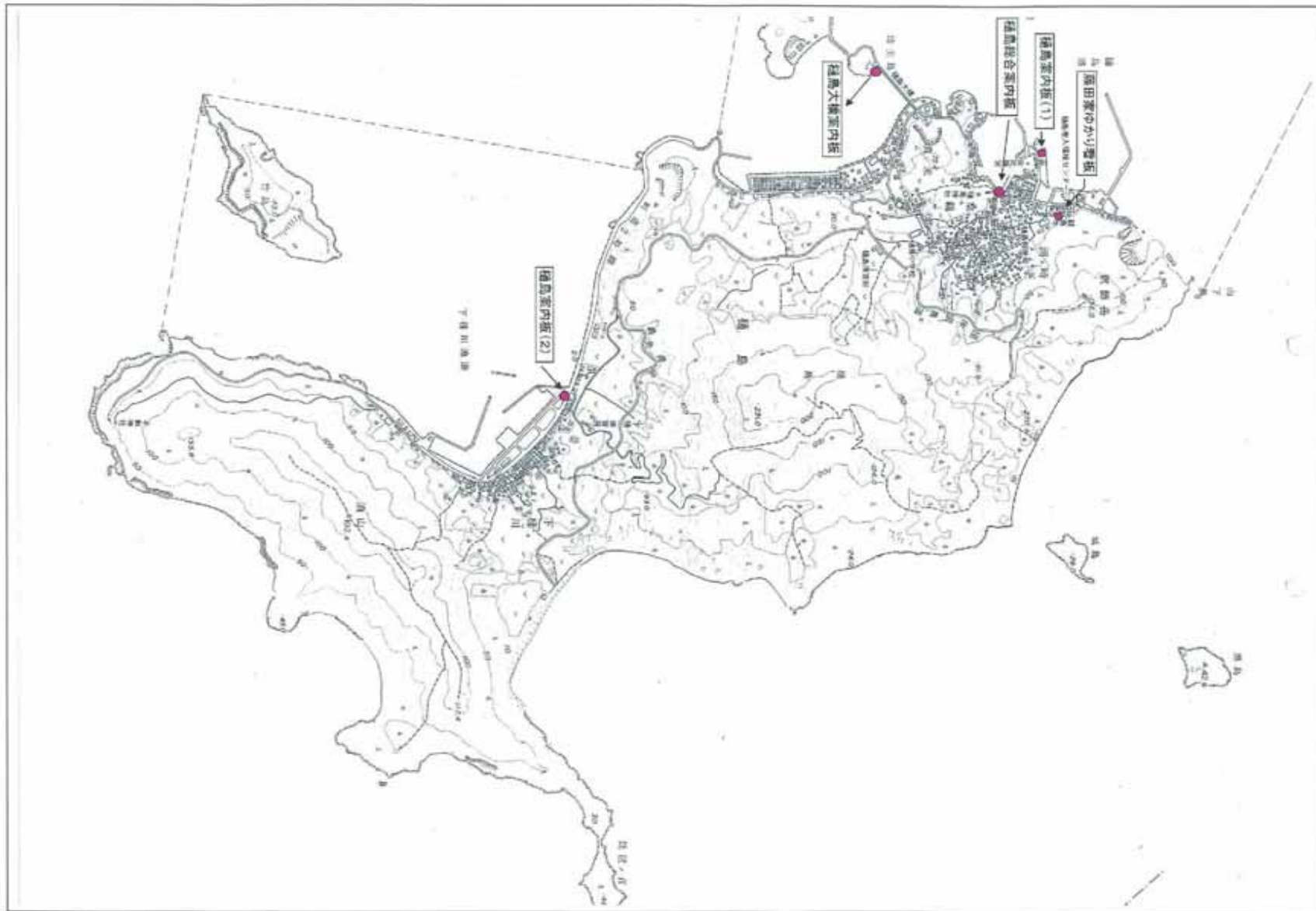
## 冊子づくりの内容

- ・ 樋島の地名にまつわる伝説
- ・ 不動神社
- ・ 砥岐組大庄屋藤田家
- ・ 観乗寺、樋島神社、金比羅宮
- ・ 樋島大空襲
- ・ 大水害 など

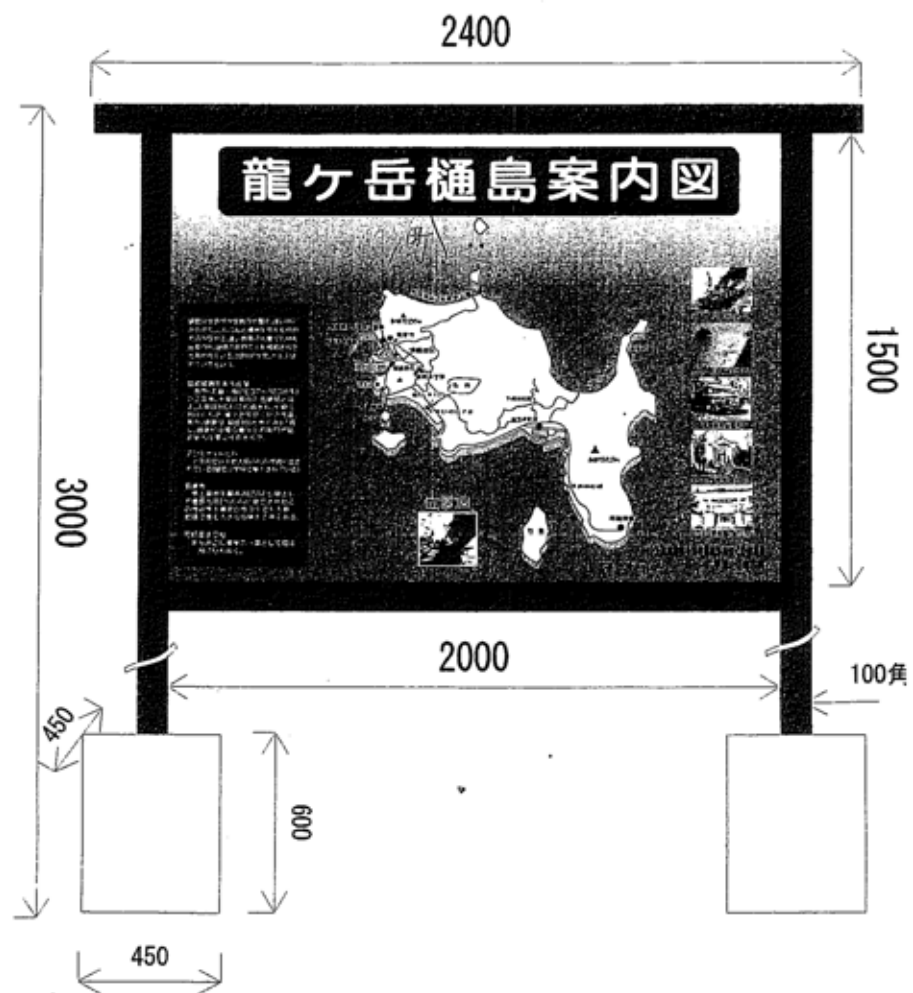
# 文化伝承

## 観光案内板の設置

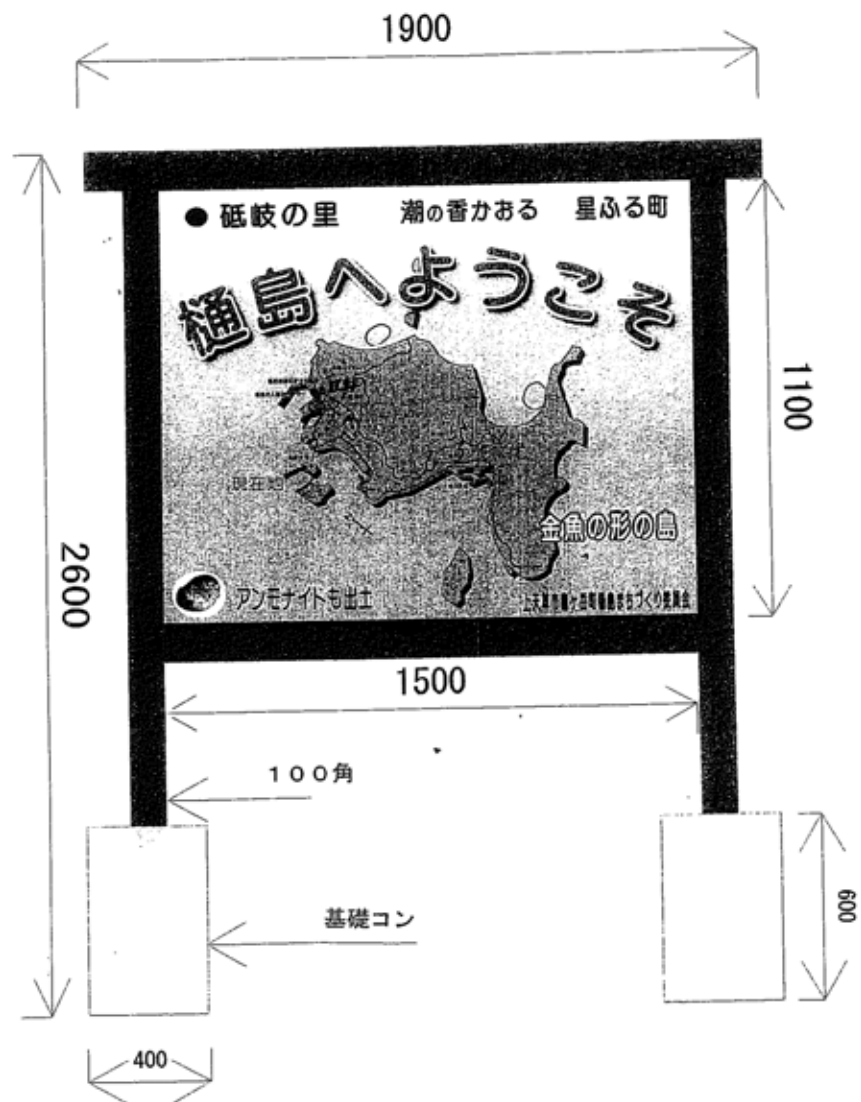
- ・樋島橋際設置
- ・総合案内板設置
- ・下桶川・須崎地区設置
- ・砥岐組大庄屋藤田家



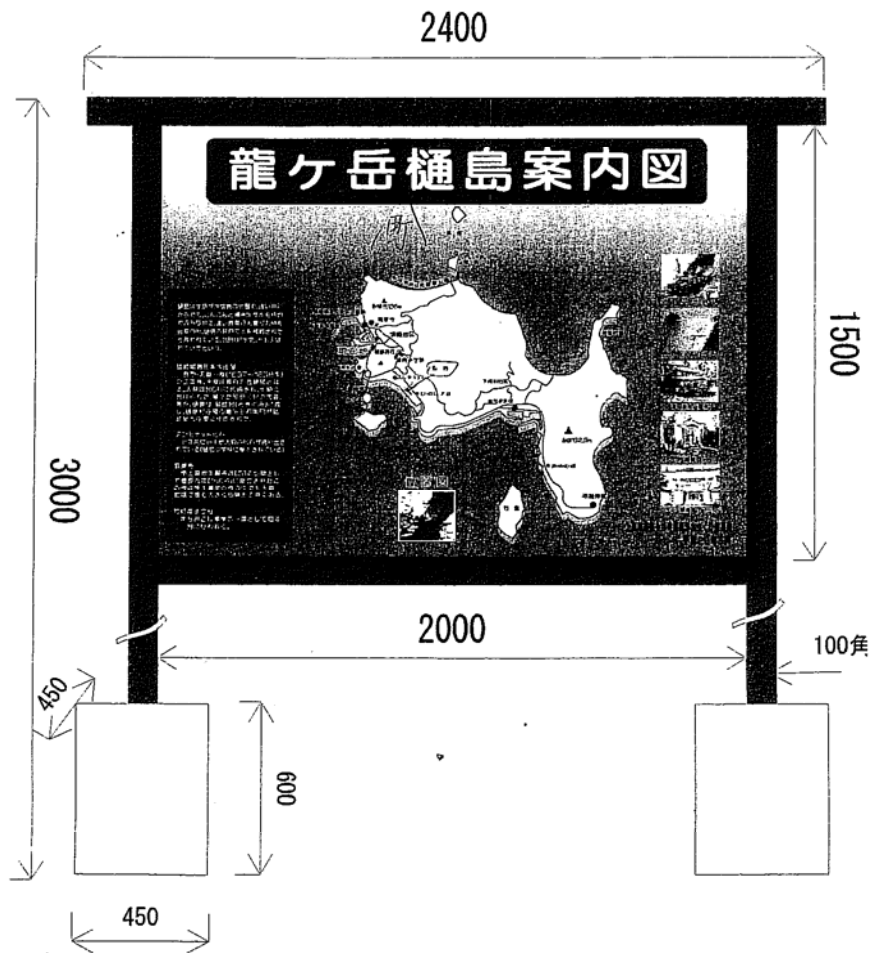
# 総合案内板案



# 樋島橋際設置案

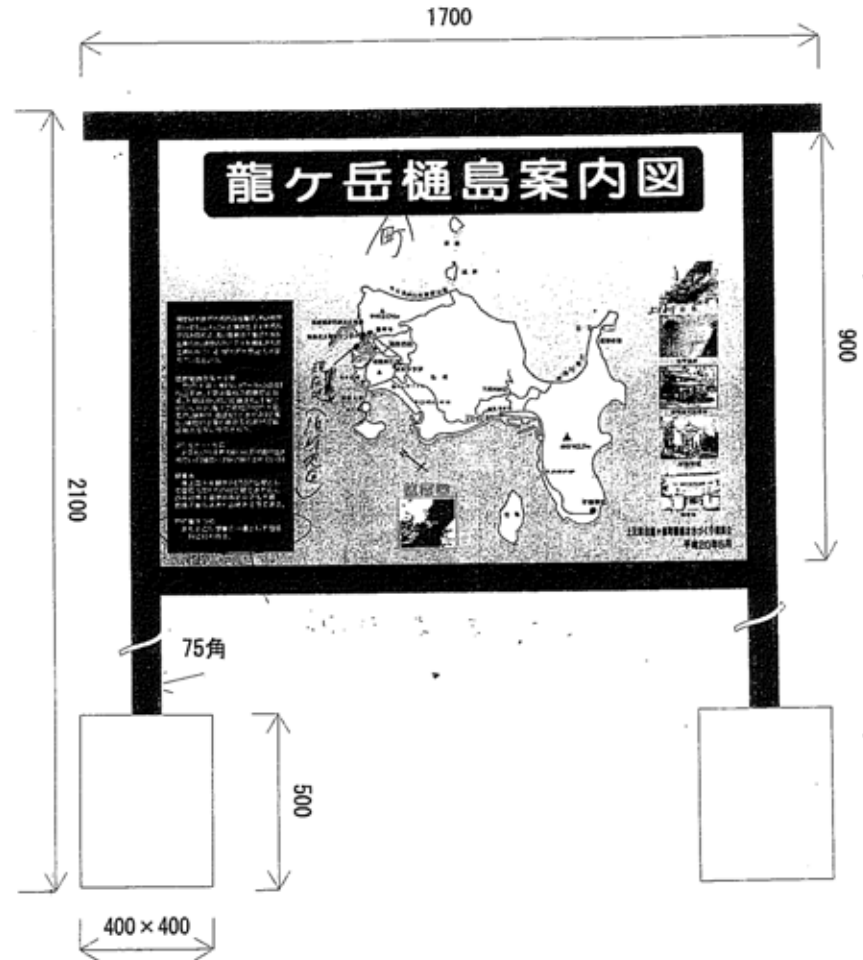


# 総合案内板案





# 下桶川・須崎地区設置用案



## 砥岐組大庄屋藤田家のゆかり

砥岐組大庄屋藤田家は、鬼塚玄蕃げんぱのすけくにわ佐国経という武士が天文（1532〜1554）の初め頃、芦北郷より樋島に移り住んだのが始まりである。

その後、寛永18年（1641）、天草は幕府直轄地（天領）となり、鈴木重成代官が10月着任、翌19年、天草を88ヶ村に区画し、10組に分け、村に庄屋、組に大庄屋を置く。この時龍ヶ岳旧三村（大道・高戸・樋島）は砥岐組に属し、大庄屋棚底村八右衛門の支配を受ける。なお、三村の庄屋は樋島村藤田五右衛門が任命される。

万治2年（1659）、砥岐組大庄屋棚底村八右衛門が没し、その跡目に藤田五右衛門が拔擢された。

寛文12年（1672）、唐突に幕命が下り、砥岐組9ヶ村（姫浦・二間戸・高戸・樋島・大道・浦・棚底・宮田・御所浦）はあらかじめ3ヶ年を限り島原藩主松平主殿頭忠房とものかみただちかの預かり地となった。島原藩から山方奉行鈴木安太夫他2名が足軽8名を従えて樋島に渡り、藤田家大庄屋敷内に代官所を設けて米倉を建て、飛船一艘を備えて9ヶ村の支配を行った。いわゆる島原藩の「樋島代官所」がこれである。

町民は民政治安の核であったこの大庄屋跡を「役座」と呼び往時を偲んでいる。地番1番地、この地を基準にしてこの地域の地番がつけられている。庭園には湧水を利用して大きな泉水があつたが、昭和47年の大水害により山崩れで埋没した。

この大庄屋の境界は石垣・生垣などで囲われていた。区内「垣内」の由来である。この石垣に六角形の石材が使われており、当時としては特注品であつたと思われる。

大庄屋には治安維持のため帯刀が許されていた。現在刀は残っていないが、2本の「袖がらみ」がある。大庄屋は現在の役場・警察署の役割を果たしていた。

なお、3代目五右衛門、4代目忠右衛門、5代目左忠太、6代目保七郎、7代目善五右衛門、8代目吾一郎と大庄屋を継ぐも、明治になり庄屋制が廃止された。9代正信、10代司馬人、11代司郎が代々の当主で、藤田家の墓地は釈師岳中腹、樋島地区を見渡すところにある。

# 冊子製作

A4版 170P(うちカラー30P)

1000部 × 1,915円 = 1,915,000円

# 案内板設置

案内板設置	4基	2,507,000円
-------	----	------------

## **ふれあい事業 竹灯籠**

**事業費：3,314,000円**

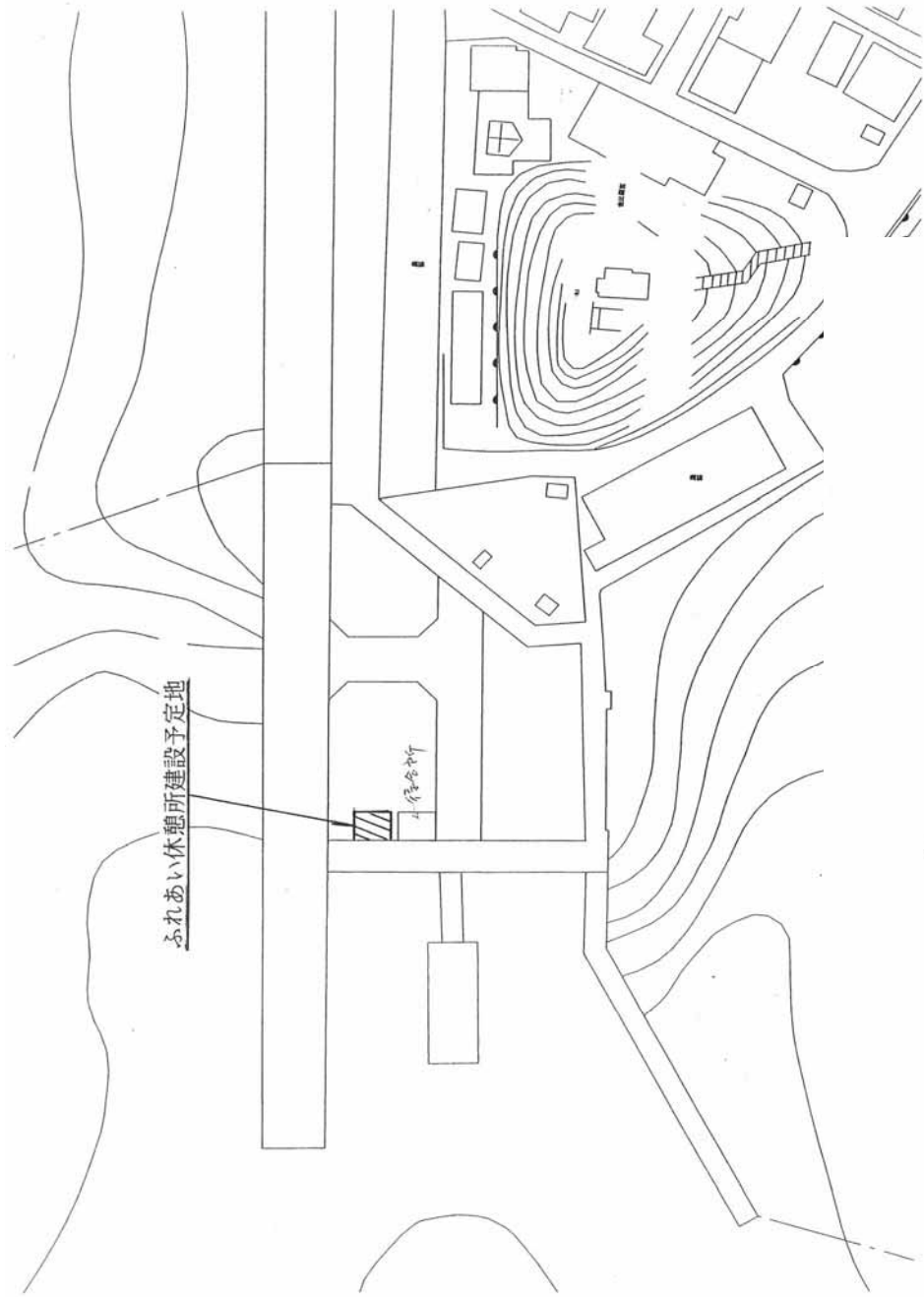
1. 年に1～2回程度、竹灯籠を使って不知火をイメージした展示を行い、住民のふれあいの場を設ける。

・各種団体及び学校関係等連携をとり竹灯籠を作成し、約200mに設置。光はろうそくではなく電球を使用します。

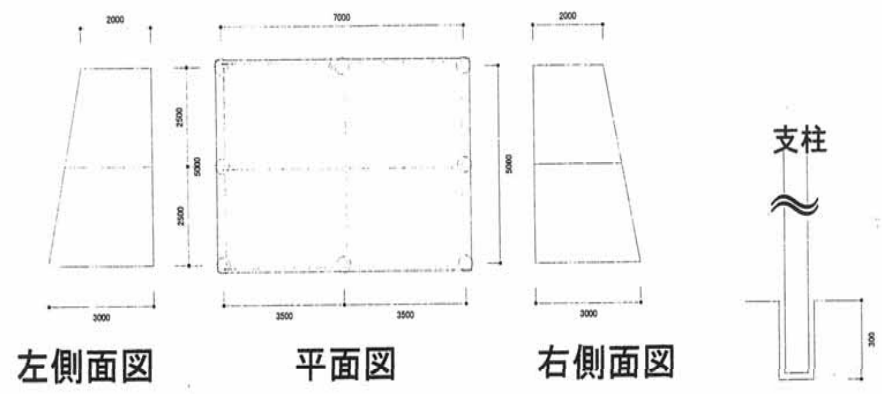
2. ふれあい広場整備

・樋島港の一角に市より占用許可をいただき、ふれあい広場を設置し島民の交流の場、ふれあいの拠点の場と位置づけ竹灯籠イベント開催に併せて物産の販売をする。





樋島港町作り



## 21年度以降の維持管理について

1. 冊子は、各家庭、学校、図書館、公民館に配付する。  
残りについては、販売し収入額は、まちづくりの運営費とする。
2. 竹灯籠のイベントと併せて特産品の販売等を実施し21年度以降の維持管理費、運営費とする。